サツマゴキブリのオガ屑内発見例

森田真澄

サツマゴキブリ Opisthoplatia orientalis FABRICIUS の分布地域は足摺岬・九州南半部から琉球列島各地・華南・台湾とされている[1]。筆者は1988年5月20日、神崎郡神崎町福本で広葉樹オガ屑内より1頭発見しているので報告する。

その発見場所であるオガ屑はエノキタケの人工培地素材の一つとして熟成させるために日光や風雨に晒し野積みされていた。純粋なオガ屑（神崎町あたりの方言で‘ヒッコ’と呼ばれている。挽き粉の転訛であろう。）ではなくチップダストや葉・枝が多く混在していた。幅広の翅の退化した特異な形態のゴキブリであり、指で体を挟むと腹をうねうねと動かす動作をした。

このゴキブリの発見地点が従来の分布地からかなり飛び離れたところであることの理由を推測してみると、キノコ用のオガ屑の購入先として県内のチップ工場が数社あると、キノコ生産管理者の談話にあった、またキノコ生産用のオガ屑は直接県外[2]場合によっては国外より購入するとも聞く、となるとオガ屑を媒体としてのサツマゴキブリのみならず樹皮や葉や枝を生活環境の一つとする生物一般の人為的移動網が存在することになる。人為的分布拡大の要因の一つとして等閑視できないものであろう。さらにオガ屑の堆積物は冬期においても発酵熱のため湿気が立つ程に高温であるので南方系のサツマゴキブリでも越冬出来てしまう可能性がある。

ごきぶりや妻の怒りははげしきもの　　森川暁水

この句のようなゴキブリに対する嫌悪を通り越して条件反射的な憎悪にまで達した感情は普通の日本人（少なくとも現代の）なら一般的なことでありましょう。人間様のご都合によって害虫に分類された昆虫も多々あるがゴキブリはその最右翼でありましょう。その嫌われ者達が近年少なくとも拙宅では明らかに減少して来ている。（高砂市）イエバエは今年（1988年）の春夏とまったく瞥見しなかったし、それを食するハエトリグモも最近見ていない。クロゴキブリは今年8月20日に1頭見たきりである。ただし、そのことを不思議に思って北播在住の人数名に話したら、いくらでもいるよと笑われてしまった。農村部と市街地では差があるのだろうか。

サツマゴキブリは住家性のゴキブリではなさそうなので本州に進出して行っても一般人の目に触れることはほとんどないだろうが、それにしてもクロゴキブリやチャバネゴキブリにも増して近代日本人に嫌われそうな形態ではある。

（参考文献）

1) 日浦勇(1977). 原色日本昆虫図鑑下巻、保育社.

2) 小亀宏(1988). きのこ用オガ屑流通の現状と問題点、特産情報10(1)：46-47.

カラスザンショウに吸蜜に訪れた蝶について

蜂 谷 幸 雄

筆者は、今年8月1日　午前6時30分から午前9時の間、須磨浦公園を訪れ、カラスザンショウ［Fagara ailanthoides ENGL.］の花に訪れるモンキアゲハの採集を行なった際、同様にカラスザンショウの花に吸蜜に訪れた数種の蝶を目撃し採集した、その中には普通、訪花を目撃しにくい種も含まれていたので以下に種名を列挙し報告する。

ナミアゲハ	Papilio xuthas xuthas LINNAEUS；	1♂
モンキアゲハ	Papilio helenus nicconicolens BUTLER；	7♂，5♀
クロアゲハ	Papilio protenor demetrius FRUHSTORFER；	1♀
アオスジアゲハ	Graphium sarpedon nipponum FRUHSTORFER；	1♂
コムラサキ	Apatura ilia substituta BUTLER；	1♂
ゴマダラチョウ	Hestina japonica japonica C. & R. FELDER；	5♂，1♀
ジャノメチョウ	Minois dryas bipunctatus MOTSCHULSKY；	2♀

(SEP.1988)